

# 数値でみる中国の介護

前回に続き、数値データをもとに中国介護業界について考えたいと思います。今回は中国の巨大な介護ニーズに対して、供給が追いついていない現状をお伝えしました。需要と供給のアンバランスに加え、そのほか様々にミスマッチが発生しています。

例えば養老施設の価格帯について。政府系施設の場合、月額費用が約3000元前後(1元=16円として)とかなり低価格帯で、どこ施設もほぼ満室状態です。利用料が安い分、入所率は非常に高くなっていますが、スタッフの専門技術力・サービス水準について

は、十分とは言えません。月額8000元ほどの中価格帯施設は、低価格帯施設と同様、入所率は高いですが、サービス水準は前者と違ってある程度価格とのバランスが取れています。

一方、大手企業や外資によって運営されているような高級施設(月額8000元以上)の入所率は3割前後と低くなっています。価格は高いですが、このような施設の入所者は設備などのハード面を重視する富裕層や自立した高齢者も多く、低所得者層向け施設に比べ、介護サービスの需要は高くありません。中国は2010年、G

## 需要と供給のミスマッチ

DP世界第2位となりまして、生活水準を表す一人当たりGDPは2018年でもなお世界第72位と非常に低くなっています。

2014年の中国老年社会調査によると、60歳以上の一人当たり平均年収が2448元以下の人口は全体の23%を占めています。この高齢者貧困率に全国高齢者人口をかけるのと、全国貧困高齢者数は4895万人に達します。

**中国の高齢者マーケット**  
～介護・不動産事業の行方～



著者プロフィール  
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。

そして都市部高齢者貧困率12%、30%に対し、農村部の高齢者貧困率は36%と高くなっています。このような状況を踏まえると、施設を価格帯別にみてみると、低所得の施設の需要が大きいにもかかわらず、それが不足しているというミスマッチが起こるのは必然であり、今後の重要課題の一つです。